

文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）

京都観世会十二月例会

平成30年12月16日（日）午前11時開演（午前10時開場）



鉢木 〈能〉

青木道喜

魚説経 〈狂言〉

茂山七五三

籠太鼓 〈能〉

橋本擴三郎

船弁慶 〈能〉

分林道治

前後之替

主催 公益社団法人 京都観世会

会場 京都観世会館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町44
(東山仁王門東入)

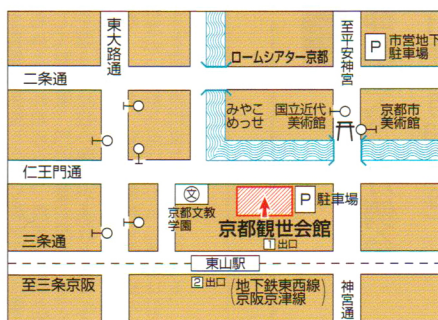
お問合せ・お申込み ☎ 075-771-6114

WEBサイトの公演情報からご予約ができます
<http://www.kyoto-kanze.jp>

チケットぴあでのご購入ができます
Pコード：482-846

前売券 (1階当日指定席) 6,000円
当日券 (1階当日指定席) 6,500円
学生券 (2階自由席) 3,000円

京都観世会館案内図



- ◆京都観世会館へは
JR京都駅から — 市バス[5][100]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約30分)
地下鉄烏丸線「烏丸御池駅」で東西線乗り換え「東山駅」下車 (乗車時間約20分)
- 阪急河原町駅から — 市バス[31][46][201][202][203][206]で「東山仁王門」下車 (乗車時間約15分)
- 京阪三条駅から — 市バス[5]で「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 (乗車時間約7分)
- 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約1分)
- JR二条駅から — 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約8分)
- 山科・醍醐方面から — 地下鉄東西線で「東山駅」下車 (乗車時間約9～17分)
- 地下鉄東西線「東山駅」から — 徒歩約5分
- ◆東隣に有料駐車場(約20台)がございます。

京都観世会十二月例会

常世ノ妻味方 團

鉢木

旅僧 喜多雅人
 大鼓 白坂信行
 小鼓 林吉兵衛
 是川正彦
 早打 鈴木実
 太刀持 茂山逸平

魚説経

出家 茂山七五三
 榎家 茂山宗彦

籠太鼓

清次妻 橋本擴三郎
 松浦ノ某 福王知登
 大鼓 河村眞之介
 小鼓 曾和鼓堂
 榎手ノ下 茂山茂

船弁慶

判官義経 分林 桜子
 静 分林 道治
 從者 有松 遼一
 武藏坊弁慶 小林 努
 大鼓 井林 清一
 小鼓 吉阪 一郎
 前後之替 從者 岡 充
 船頭 茂山千三郎

附祝言

(終了予定 四時半過)

後見・地謡

味方 玄
 大江又三郎
 河村浩太郎
 梅田嘉宏
 深野貴彦
 林宗一郎
 田茂井廣道
 古橋正邦
 河村和重
 河村晴道

後見 鈴木 実

橋本光史
 杉浦豊彦
 樹下千慧
 大江泰正
 橋本忠樹
 吉田篤史
 吉浪壽晃
 浦田保浩
 井上裕久
 越賀隆之

大江広祐
 田茂井廣道
 河村博重
 河村和貴

大江信行
 片山九郎右衛門
 浦田親良
 河村和晃
 宮本茂樹
 松野浩行
 浅井通昭
 浦田保親
 河村晴久
 片山伸吾

解説

鉢木

上野国佐野で大雪に遭った旅僧(実是最明寺入道時頼)は、夫婦の者に一夜の宿を借りる。宿の主は暖を取る為、秘蔵の鉢木を切り、火を焚いてもてなす。常人とは思えぬ風情に、僧が名を尋ねると、主は佐野源左衛門常世と名乗る。一族に横領されて零落してはいるが、いざ鎌倉に大事あらば一度に馳せ参ると、その志を述べる。僧は鎌倉への沙汰(訴訟)を促し、別れる。

(中人)

鎌倉より使いが立ち、諸国より軍勢が集まる。執権最明寺入道時頼は、佐野での約束を違えず馳せ参じた常世を賞め、本領の安堵に加えて、鉢木のもてなしの報酬に、その木の名に因んで、梅田、桜井、松井田の三箇の庄を与える。常世はこれを賜り、歡喜して本領へ帰っていった。

籠太鼓

松浦何某に仕える関の清次は、他郷の者と口論し、殺してしまおう。その科により、籠に込められた清次は、籠を破って逃走、妻が呼び出され、居所を明かすまで籠に込められ、籠番が、刻を打つ為に懸けた太鼓を打って番を思っていると、籠内の妻が、夫を思いうあまり狂気してしまふ。哀れに思つた松浦何某は妻を籠より出そうとするが、妻は夫の身代わりとして出ようとしてしまふ。妻は更に狂い、鼓を打って立ち舞い、また籠に籠ってしまふ。松浦何某の、神仏にかけての赦免の言葉に、妻は終に夫の在処を教え、夫婦は科を免れて元の如く帰る。未久しく契を結んだ。

(中人)

狂女ものと呼ばれる多くの曲の中で、『籠太鼓』は、『偽れる物狂い』である点で異質である。夫の在処を知らぬと偽り、物に狂ふりをせし松浦何某に対抗する。夫を思ふ一念が、妻をこまでさせたかにさせるのであろうか。鼓を打つことの面白さが、狂言、シテ共に生き生きと演

出され、曲の特徴となつてゐる。『籠』と『鼓』の關係は、『弄鼓』や『漏鼓』(時を知らせる鼓)の縁も生み出している。

船弁慶

源義経が兄・頼朝の疑いを解かんと弁慶その他の家臣を従へ都より摂津国・尼崎の大物浦まで落ちて来たとき、弁慶は静御前が一行に加わつてゐるのを知り、義経をいさめて、同意を得て静の宿を訪ね都へ帰るよう伝える。静はこれを弁慶の一存であるかと誤解するが、義経からも帰ることを勧められ、止むなく別れの宴で悲しみつつも再会を信じて舞を舞つて一行を慰め、ななく都へ帰つてゆく。

お客様へお願い

- ◆特別会員席以外の座席券は、当日午前10時から先着順にお引換えいたします。
- ◆開演中のお出入りはなるべく遠慮ください。
- ◆許可なき写真撮影・録音・録画はお断りいたします。
- ◆場内では携帯電話等の呼出音をお切りください。
- ◆予告なく出演者等が変更となる場合がございます。
- ◆予告なく、あらかじめご了承ください。
- ◆車でお越しのお客様には、会館東隣に有料駐車場がございます。また満車の際には岡崎公園市営地下駐車場もご利用いただけますが、近隣の催し等により、混み合う場合もございますので、ご来館はなるべく公共の交通機関をご利用ください。

【表紙写真】

《籠太鼓》林喜右衛門
 金の星渡辺写真場 撮影

次回予告

京都観世会1月例会

平成31年1月13日(日)

午前11時開演

- (能) 翁 大江 又三郎
- (能) 難波 青木 道喜
- (狂言) 鎧 茂山 千作
- (能) 羽衣 観世 清和
- (能) 小鍛冶 深野 貴彦